

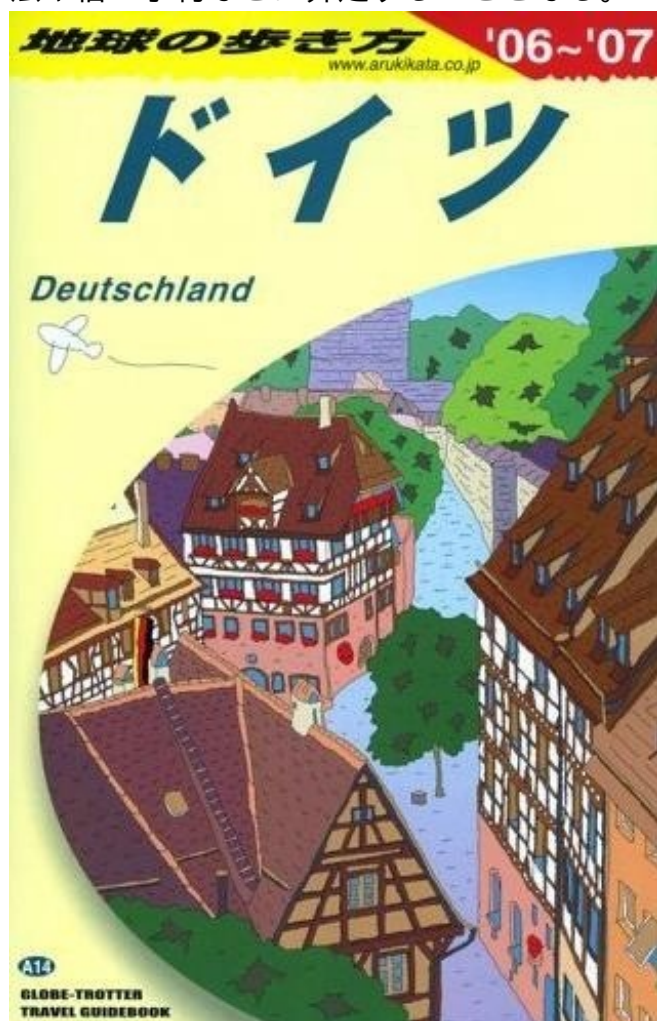


FIFA WORLD CUP
GERMANY
2006

ドイツに行こうと決めた高校3年生

私はもともとサッカー大好き小僧であったが海外の試合を現地観戦した経験などはなくJリーグを現地観戦している程度であった。しかし中学生の"失敗"から2006年のドイツワールドカップには絶対に参加したいという気持ちが日に日に強くなっていった。同じ思いを抱いていた友達が小学校からの親友に5人いたこともあり「絶対にこの5人でドイツに行ってやる！」と覚悟を決めた。

高校も3年生になった私は受験勉強などそっちのけでドイツの情報収集を開始する。なぜならドイツは治安もよく行きやすいことからツアー料金が高騰し、とても高校生(ドイツワールドカップ時は大学1年生)に出せる額ではなかったのである。さらに弾丸ツアーなど"試合だけ"を見てとんぼ返りしてくるツアーばかりであった。私はせっかくドイツまで行くのだから試合はもちろん現地の歴史的建造物や世界遺産、豊かな自然などを、この目で見たい肌で感じたいという強い気持ちから一切旅行会社を通さず全て私が企画・立案をする「金子ツアー」で2006 FIFAワールドカップドイツ大会に参加することを決めたのである。この決定により私は少しでも安く行く方法や宿の予約などに奔走することとなる。



やること多すぎ！

ドイツの情報収集に明け暮れていた私に第一の"試練"が訪れる。宿の予約である。この時2006年1月、センター試験も迫った忙しい時期ではあったがかなり宿が満杯になってきていたので、どうしても予約する必要があった。全て英語表記の海外サイトからフランクフルト周辺の宿を探すがどこも埋まっている。フランクフルトから少し離れたオフエンバッハという町に若干の空きがあったのですぐに予約するが最後の最後にクレジットカードでしか支払えないことが判明する。当時10代だった私はカードを持っておらず途方に暮れてしまう。しかし持つべきものは友である。地元の友達に帰国子女の友達がいたことを思い出しすぐに連絡を取った。予約しようとしたホテルの電話番号を調べた私は英語が話せる帰国子女の友達に直接国際電話で予約を取ってもらったのだ。友達に感謝の気持ちでいっぱいになったと同時に英語が話せないととても不便だということを感じさせられた。

これでなんとか寝床は確保できた。この前にすでにパスポートの取得やドイツで観光する上で絶対に必要なユーレイルパス(特急の乗り放題券)の発券や往復格安航空券の予約など全て悪戦苦闘しながらも完了していたので、残るは最後にして最大の山場・・・ワールドカップの観戦チケット争奪戦への参加であった。

チケット争奪戦開始

ワールドカップのチケット。これをゲットするのが一番難しい。なぜなら競争倍率が10倍とも100倍とも言われていたからである。お金をたくさん出せばオークションなどで後に購入することもできるが貧乏学生にはFIFAの公式サイトから正規購入するしか道はなかったのである。

そしてついに発売日当日。販売開始時間が高校の授業と被っていた私は仮病を使い早退し家のパソコンに噛り付いてその時を待った。チケットは先着ではなく抽選だったので、そんなに急ぐこともなかったが逸る気持ちを抑えられない自分がいた。こちらのサイトも当然全て英語表記だったので事前に和訳をしているサイトを見つけ準備は万端である。販売開始の時刻とともに世界中からアクセスがあったのかいきなりサーバー落ちが起こる。しかしすぐに復旧し私はチケット争奪戦に加わった。申し込める試合は5試合までで当然ながら日本戦の2試合、日本VSオーストラリア・日本VSクロアチアは申し込んだ。後はドイツを訪れる2週間の期間にある試合でアルゼンチンVSセルビアモンテネグロ(当時、今ほど注目度はなかったがメッシが見たかった)と韓国VSトーゴ(この試合なら人気になさそうだから取れるかという安易な考え)とポルトガルVSイラン(一緒に行く友達に熱狂的なポルトガルファンがいたため)の3試合を申し込んだ。ここまでにかかった時間なんと3時間。何度も何度もサーバーが落ちてしまったり申し込んだはずなのに申し込めてなかったりページが先に進まないなど数々の障害を乗り越えなんとか5試合の申し込み成功した。後は3週間後の抽選結果発表日を待つだけとなった。



チケット奪取！！

チケット販売から3週間後ついに、その日が訪れる。抽選結果がメールで送られてくる日である。朝からソワソワし緊張していた私はなんとか学校に辿り着く。メールが来る時間は未定だったので何回も担任の先生のパソコンでメールチェックをさせてもらったがメールは来ていない。なにも当選していないのではないかと気落ちしながら家に帰る。そして家に着き1%の希望と99%の不安の気持ちでパソコンを見るとメールが1件……。開いてみるとそれはFIFAからのメールであった。読んでみるとそこには日本VSオーストラリア・日本VSクロアチア・アルゼンチンVSセルビアモンテネグロ・韓国VSトーゴ当選の文字が……。私は目を疑った。何度も何度も確認した。しかし事実是不変。なんとなんと5試合中4試合も当たったのである。気付いた時には友達に電話し狂喜乱舞してした。インターネットの掲示板を見ても日本戦を落選してしまった人が続出している中当たったのだからまさに奇跡としか言いようがなかった。この時の嬉しい感情は実際に現地です試合を見た時を上回っていたかもしれない。

これにて準備は万端。4か月後いざドイツへ。



ついに夢が叶ったその瞬間

2006年6月8日、大学生になった私は成田空港でTBSのインタビューを受けていた。5人全員が日本代表のユニホームを着用しフェイスペインティングを施し日の丸を広げた集団はインタビューしやすかったのであろう。なんとも賑やかな集団は意気揚々と出国カウンターに向かって行く。

理想はルフトハンザ航空の直行便でフランクフルトに向かうというプランだったがワールドカップ期間中ということもあり値段が高騰していたため日本航空でフランス、パリのシャルル＝ド＝ゴール空港に行きそこから夜行列車でフランクフルトに入るといいういかにも貧乏旅行らしいプランとなっていた。13時間のフライトを終えパリに入りお約束のエッフェル塔・凱旋門・シャンゼリゼ大通りを観光した5人は夜行列車に乗り込む。そこで個人海外旅行の過酷さをいきなりみせつけられてしまう。車内を移動中、友達が酔っ払った屈強のフランス人に絡まれデジカメを取られてしまう。この時パスポートを取られなかったのが不幸中の幸いであった。さらに日本から確実に予約して手元に寝台券のチケットがあったにも関わらず二重発券によりすでに寝台ベットには二人のフランス人が寝ていたのである。仕方なく人一人が寝るのがやっとの狭いベットに身を寄せ合って寝たのだった。なんとも前途多難なスタートではあったが朝起きるとそこは夢にまで見たドイツであった。ついにドイツ、フランクフルト駅に到着である。自然と涙が込み上げてきた。夢が叶ったその瞬間である。



ハードすぎたかな？

なんとかドイツに辿り着いた私たち5人はなんとかホテルまで辿り着く。休息する間もなく世界遺産ケルン大聖堂の観光と開幕戦のドイツVSコスタリカをスポーツバーに見に行く計画を実行に移す。これから約2週間オフエンバッハのホテルに連泊しそこから毎日何時間もかけて出かけていくというハードプランであった。

ここで少し私たちのハードプランをご紹介します。

6月9日ケルン観光(オフエンバッハから往復5時間)

6月10日ローテンプルグ観光(オフエンバッハから往復5時間)

6月11日ベルリン・ポツダム観光(オフエンバッハから往復10時間)

6月12日カイザースラウテルンで日本VSオーストラリア観戦(オフエンバッハから往復4時間)

6月13日フランクフルトで韓国VSトーゴ観戦(オフエンバッハから往復1時間)

6月14日ドイツを抜け出し電車で1泊2日スイス旅行(オフエンバッハから往復16時間・この日だけスイスに宿泊)

6月15日スイス・グリンデルワルドでアイガー北壁、ユングフラウヨッホ観光

6月16日ゲルゼンキルヘンでアルゼンチンVSセルビアモンテネグロ観戦(オフエンバッハから往復6時間)

6月17日フランクフルト観光(オフエンバッハから往復1時間)

6月18日ニュルンベルグで日本VSクロアチア観戦(オフエンバッハから往復6時間)

6月19日マインツ観光(オフエンバッハから往復3時間)

6月20日フランス、パリ・シャルルドゴール空港へ(片道6時間・日本に向け出国)

この日程を全てユーレイルパス(特急乗り放題券)を使い毎日のように始発で出発し終電で帰って来ていたのだから今考えても恐ろしい日程である。若さで乗り切ったとしか言いようがない。



感動！歓喜！そして落胆・・・

6月12日ついに夢にまで見たワールドカップの現地観戦日。しかも日本戦である。誰よりも早く起きた私はシャワーに入り目を覚ましユニホームを着用しフェイスペインティングを施し応援ハットをかぶり日の丸を身にまとった。戦う準備は整った。後は試合会場で全力で応援するだけである。試合会場の町、カイザースラウテルンに到着した私たちは凄まじい熱狂の渦と雰囲気には圧倒された。そこらじゅうで応援合戦が巻き起こりビールが空から降ってくる。絶対に日本ではありえない光景だし普段Jリーグにしか行かない私たちはただただ驚くしかなかった。

しかし圧倒されてるだけではダメだ。オレ等は何のために来たんだ。日本を応援しに来たんじゃないのか。そう思った瞬間、今までの思いが全て爆発した。誰よりも大きい声を出しチャントを歌い最初は5人で歌って行進していたが気付いた時には30人を超えていた。30人超えの一団はそれぞれの思いを爆発させながら歌い踊り、途中オーストラリアサポーターと互いの健闘を誓い合い素晴らしい雰囲気の中スタジアム入りすることとなる。

厳重なチェックを受けスタジアムの中に入ると意識が飛びそうになる。席がプレーエリアに近かったこともあり目の前にジーコや中村俊輔や中田英寿がいたからである。日本中でもほんの一握りの人しか見ることができない現地観戦に自分がいると思うと鳥肌もたった。

試合が始まるともう無我夢中で応援に没頭した。そして前半26分、歓喜の瞬間が訪れる。中村俊輔による先制ゴールが決まるのである。入った後しばらく記憶が飛んでいる。あまりに興奮しすぎてせいだろうか。とにかく素晴らしい瞬間であった。

そして勝ちが見え始めた後半39分からの6分間は今でも思い出したくない場面である。歓喜からいきなり奈落の底に突き落とされた気分であった。

試合後落胆した私は涙が止まらずインタビューに来たアナウンサーに慰められるといった状態であった。たしかに試合には負けしまったがとてつもない人生経験を得られたと感じている。



とてつもない経験

続くクロアチア戦も日本は善戦したが0-0の引き分けとなり日本のアウェーの地での初めての勝利を見ることはできなかった。しかし私が体験したことはかけがえのない財産になったと感じる。ドイツに行くことと決心した高校3年生の時から冒険は始まっており旅行会社を一切使わず全て自分で企画・立案して行く「金子ツアー」で行くと決めたことにより旅行会社のツアーで行くより何倍も素晴らしい体験を積み、とてつもない人生経験になったと思う。

このことがきっかけで海外旅行に完全にハマった私は毎年のようにバイトで稼いでは海外旅行で使い切るというギリギリの生活をしている。大学の卒業旅行は「金子ツアー」による南米旅行に決まった今日この頃である。

最後に私の組んだムチャクチャな日程の旅行に最高の笑顔で「参加するよ！」と言ってくれた小学校からの親友4人に・・・「ありがとう！」